フロートトイレ施工FAQ

LIXIL Link to Good Living

FAQナビ

お探しの情報は以下のページに載っています。

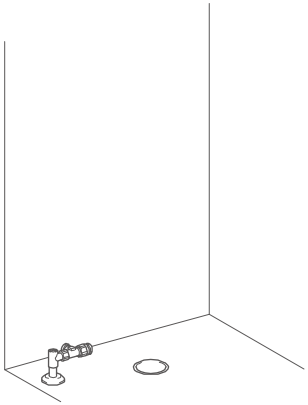
項目	ページ数
施工概要	P.3
建物の構造別対応施工方法は？	P.12
フレームを支える補強木と固定金具はどんな壁にも付けて良い？	P.13
壁や床の表面材の材質は決まっているの？	P.16
床をタイル仕上げにしたい場合は？	P.17
取り付けたいのに、対応間口の対象外です。	P.18
エンドパネルについて	P.18
施工するのにどれぐらいの時間がかかるの？	P.19
水量変更できるの？	P.20
その他の質問	P.21

施工概要

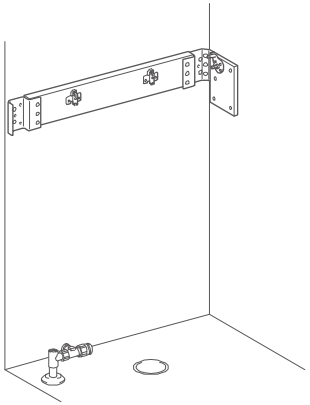
手順自体は難しい工程なし！手間いらずのカンタン施工です！！

施工動画が
確認できます

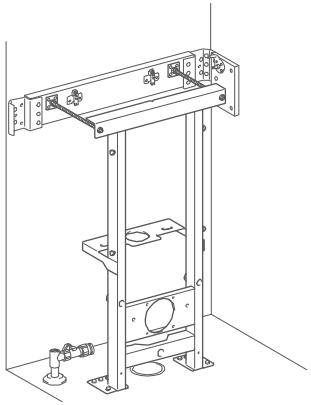
STEP 1 施工前準備



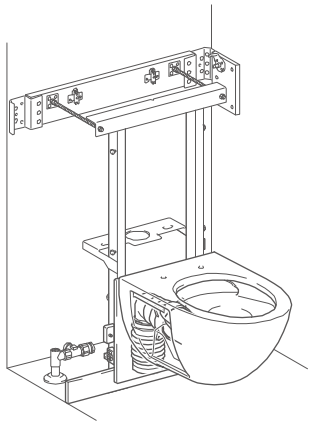
STEP 2 補強木の取付け



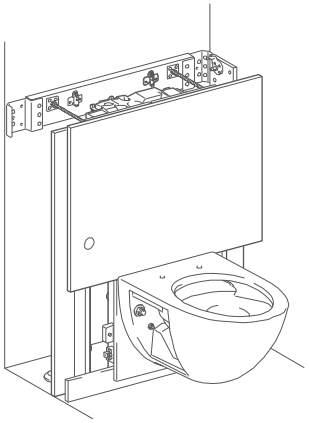
STEP 3 本体フレームの固定



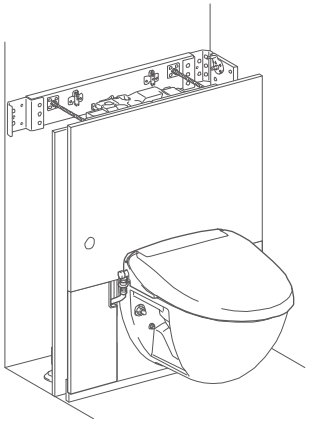
STEP 4 便器の取付け



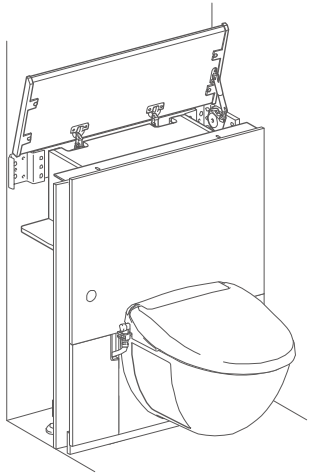
STEP 5 タンク・パネルの取付け



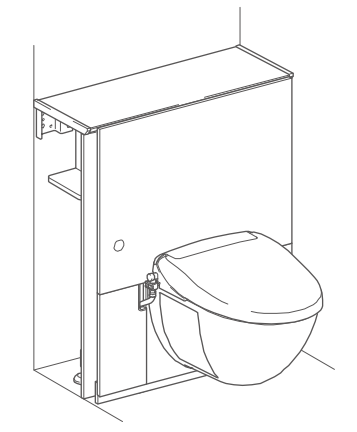
STEP 6 シャワートイレの取付け



STEP 7 カウンターの取付け

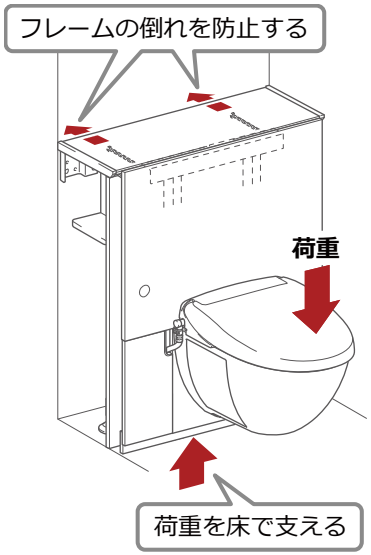


施工完了



施工条件 壁の強度について

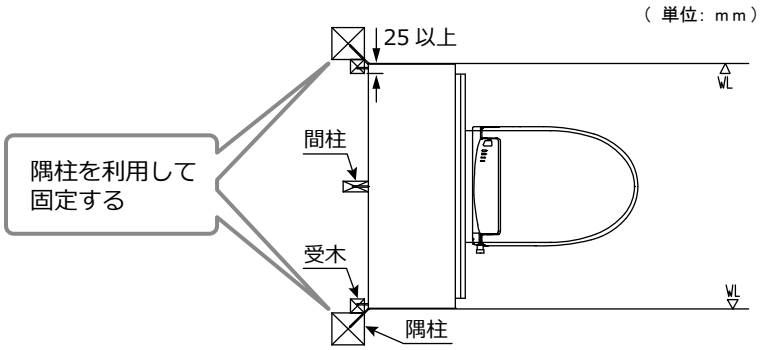
本商品は便器使用時にかかる荷重は床で支え、ボルトでフレームの倒れ防止を壁で支える設計のため、壁・床強度に条件があります。



- 木材や建築部材が腐食などで強度不足でないこと。
- 便器後壁の左右に隅柱（105角）があること。
- 柱の横に受木（壁から最低25mm）があること。
- 間柱および受木は奥行き45mm×幅36mm以上のものをピッチ455mm以下であること。
- 木造軸組工法であること。

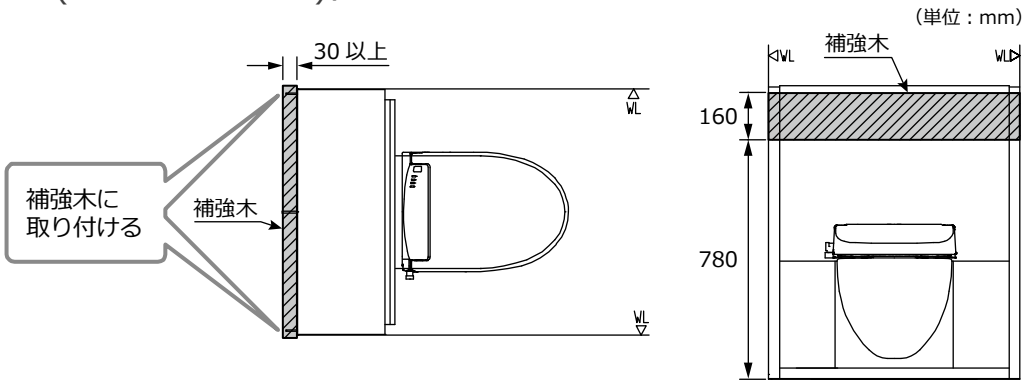
【取付方法A：隅柱利用の場合】

- 壁強度に関する条件を全て満たしている場合、壁裏補強なしで取り付けができる。
- 隅柱が腐食などしていないこと。



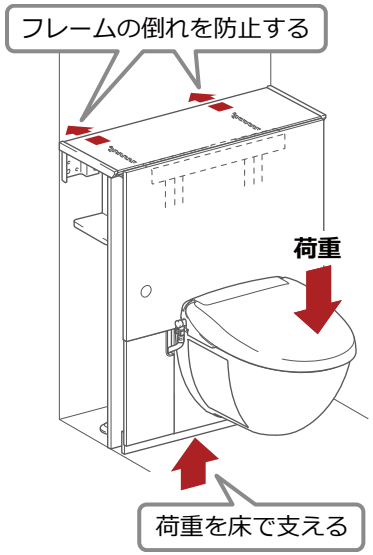
【取付方法B：壁裏補強を入れる場合】

- 壁強度に関する条件を1つでも満たしていない場合は壁裏補強を入れること。
- アミ掛け部の位置に下地補強（厚さ30mm以上、構造用合板(JAS規格品相当)）を入れること。



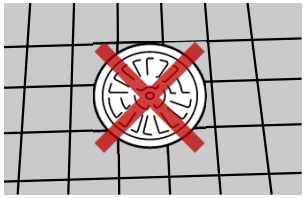
施工条件 床強度に関する条件

本商品は便器使用時にかかる荷重は床で支え、ボルトでフレームの倒れ防止を壁で支える設計のため、壁・床強度に条件があります。



- 根太は高さ45mm×横36mm以上のものを、ピッチ303mm以下であること。
  また、束などによる支持をピッチ910mm以下であること。
- 床の合板の厚みは12mm以上とし、床合板と根太が確実に組み付いていること。
  また、木造床以外の場合は上記以上の強度を確保すること。
- 上記の2条件を満たしていない場合は、相応の補強を実施すること。
- コンクリート床には設置できません。後施工アンカーの間隔が確保できません。

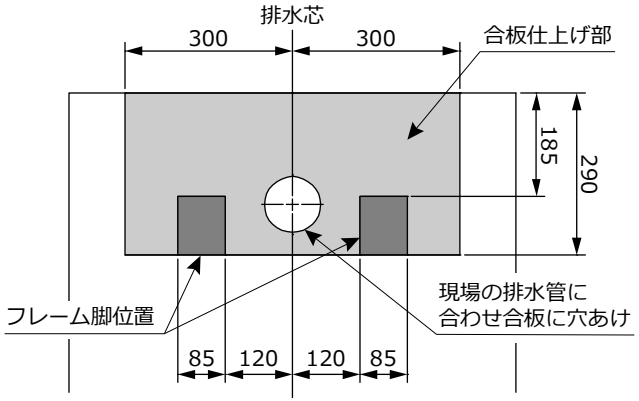
床を水で洗い流すようなトイレ環境では使用できません。
フレームが腐食して製品の破損がおこり、ケガをする可能性があります。



【タイル床の対応】

- 床にはフレーム脚部に荷重が掛かるため、全面タイル床では亀裂が入る可能性があります。本製品をタイル床に設置する場合は、右図アミ掛け部をタイルと同じ厚みの合板で仕上げること。
- タイルと同じ厚みの合板を床に取り付ける際、フレーム脚位置にはねじや釘打ちをしないこと。
  ※フレーム脚位置にねじや釘があるとフレーム脚部の固定時に干渉してフレーム固定ができません。

（単位：mm）



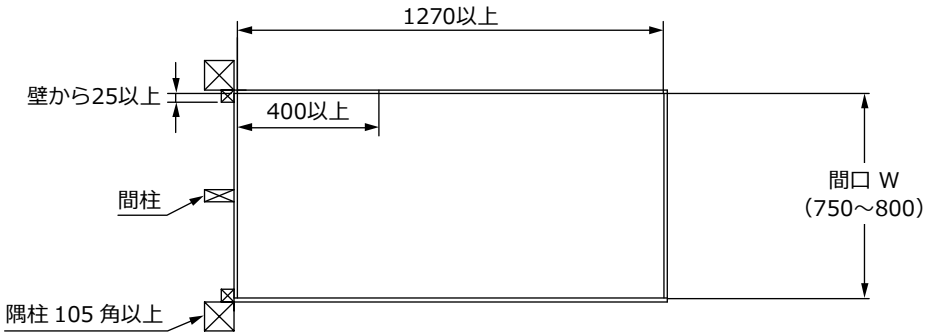
施工条件 トイレブースに関する条件

対応間口は**750～800mm**のみとなります！

リフォレの出荷割合が多いのは**750～800mm**の間口です。この間口で**56.7%**を**網羅**しています。

- キャビネットのねじ位置の壁裏に電気配線や配管などがないこと。
- 間口は750～800mm、奥行は1270mm以上であること。
- 幅木がある場合、厚みは10mm以下であること。
- 取付壁床面の不陸は2mm/1m以下であること。
- 左右の壁は後壁から400mm以上あり、引き戸などの干渉がないこと。

（単位：mm）

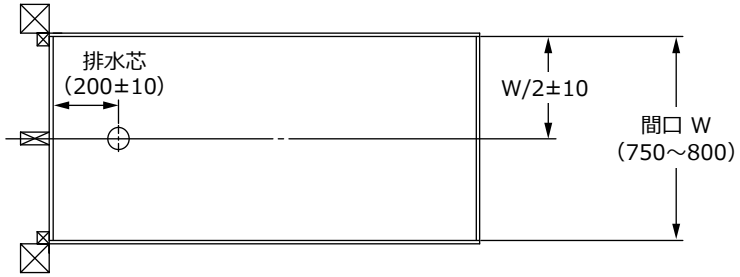


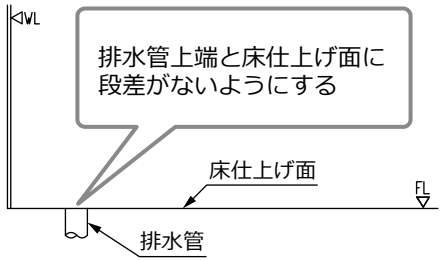
施工条件 排水に関する条件

排水芯は**200±10mm**のみ対応可能。
排水位置決まっているため、範囲外で取り付けるとキャビネットが取り付かない、
排水ソケットに負荷が掛かり漏水の恐れがあります。

- 排水位置は後壁から200±10mm、間口中心から左右に±10mmです。
  排水芯がずれた場合は立ち上げ直すこと。
  キャビネットが取り付かない、もしくは排水部材に負荷がかかり漏水の危険があります。
- 排水管がVP100、VU100の場合、変換アダプターを別途手配してください。
  （VP100用品番：34-1187, VU100用品番：34-1186）
  VU75の場合は同梱の変換アダプターで対応可能です。

（単位：mm）



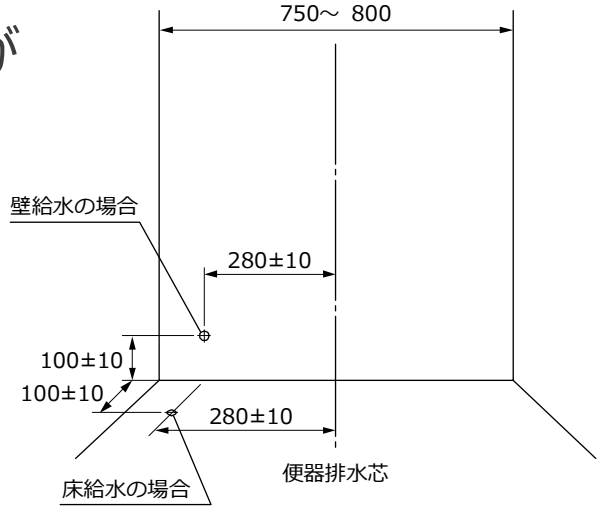


施工条件 給水に関する条件

排水芯は200±10mmのみ対応可能。
給水位置が決まっているため、範囲外で取り付けるとキャビネットが取り付かない恐れがあります。

- 止水栓および給水ホース類は、同梱されているものを使用すること。
- 止水栓を給水管に取り付けるときは、ねじ部にシール材を巻き付けること。
- 止水栓は工具でしっかり締め付けること。
- 対応範囲に給水管が取り出されていること。

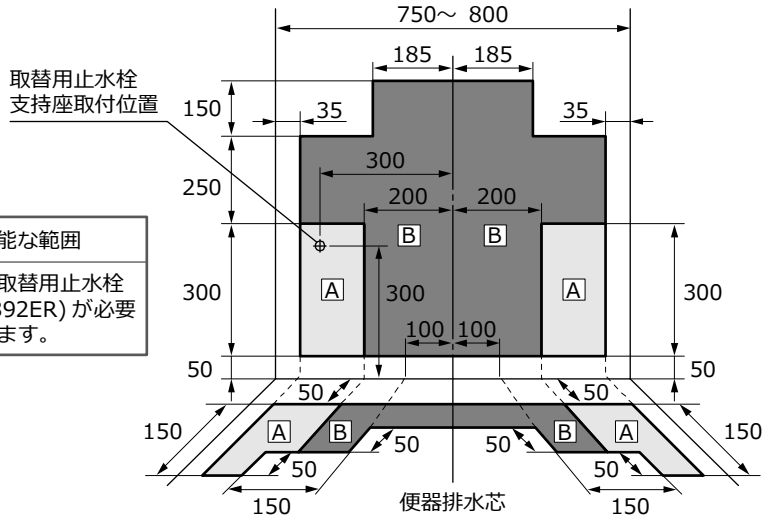
【推奨給水位置】 (単位：mm)



【既存給水流用の場合】

- 対応範囲に給水管の中心が取り出されていること。
  ※給水位置が対応範囲に入っていない場合は、給水位置の移動が必要になります。

(単位：mm)



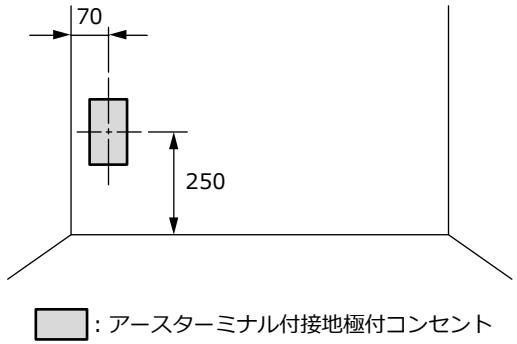
A部	設置可能な範囲
B部	別売の取替用止水栓(TF-3892ER)が必要になります。

施工条件 コンセントに関する条件

シャワートイレと照明用のコンセントが必要！
斜線の範囲であれば、既存のコンセントを流用可！

- 配線工事およびコンセントの設置は、下記に準じた工事を電気工事店に依頼すること。
- コンセントはAC100V、定格消費電力に適したアースターミナル付接地極付コンセント（2口以上）を使用すること。
  （CW-EA24Qの場合：1300W、間接照明使用の場合：10W）
- 定格消費電力に適した配線を行うこと。
- 必ずアースターミナルはD種接地工事に準じた工事を行い、確実にシャワートイレのアース栓を接続すること。
- 施工完了まで、電源プラグをコンセントに差し込まないこと。
  故障する恐れがあります。
- シャワートイレ、照明の電源コードの有効長さは1.0mです。
- 必ずアースターミナル付接地極付コンセントに変更すること。

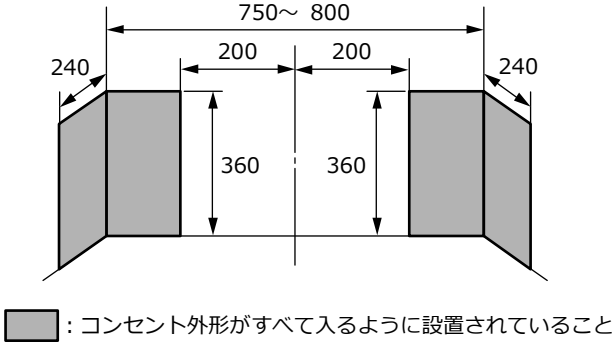
【推奨コンセント位置】 （単位：mm）



【既存コンセント流用の場合】

- アースターミナル付接地極付コンセントの外形が対応範囲にあることを確認すること。
  ※対応範囲外の場合は、電源コードが届かなかったり、パネルとコンセントが干渉する恐れがあるため別途移動工事が必要です。

（単位：mm）

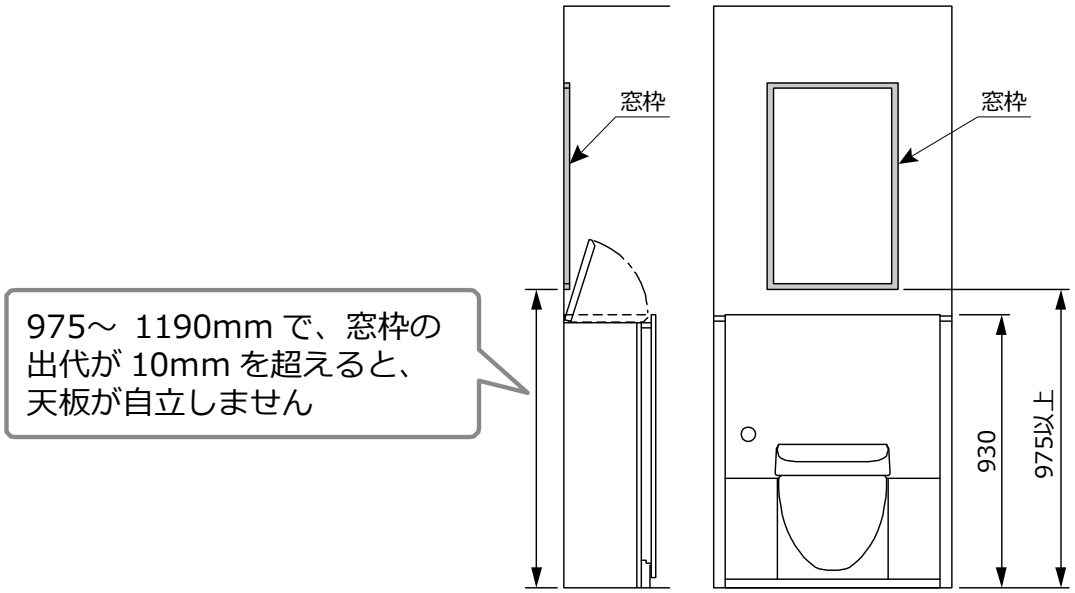


施工条件 窓枠に関する条件

開閉するカウンターのため、窓枠が干渉しないか注意！

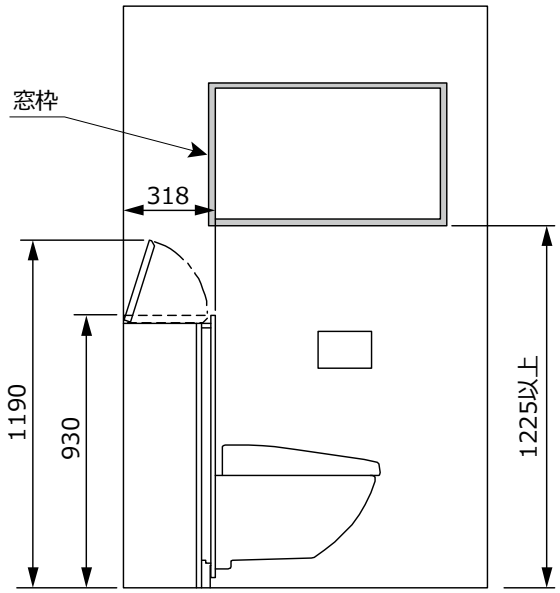
- 周辺部材（鏡・タオルリングなど）を取り付ける場合は、周辺部材の説明書を参照してください。
- 壁に窓枠や腰壁の見切りなどの突起物などがある場合は、制約がつきます。
  事前に商品と干渉しないよう窓枠や腰壁の見切りなどの位置を設定してください。

【便器後壁に窓がある場合】



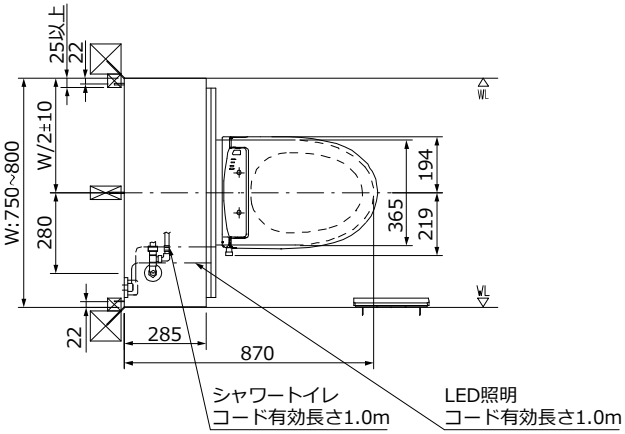
【便器横壁に窓がある場合】

（単位 ： mm）

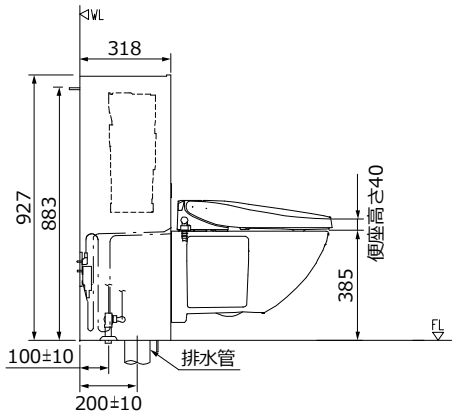


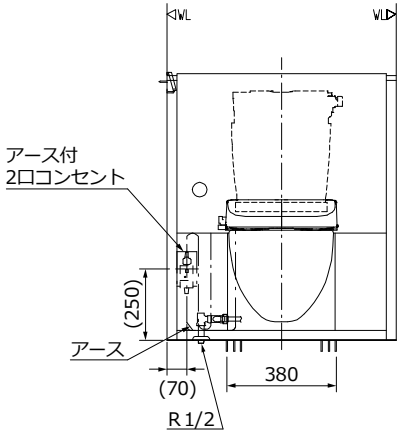
標準施工図

【隅柱固定の場合】



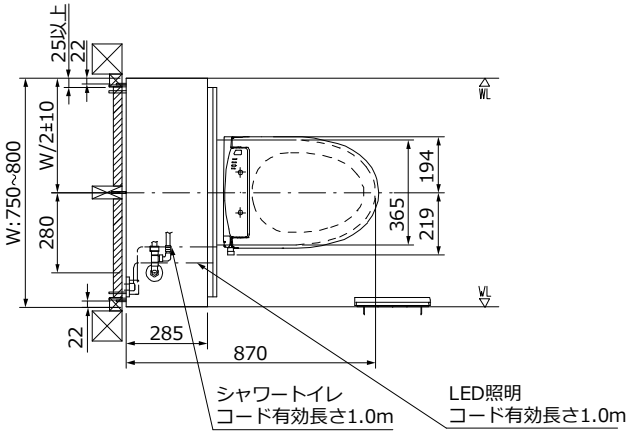
リモコン正面形状



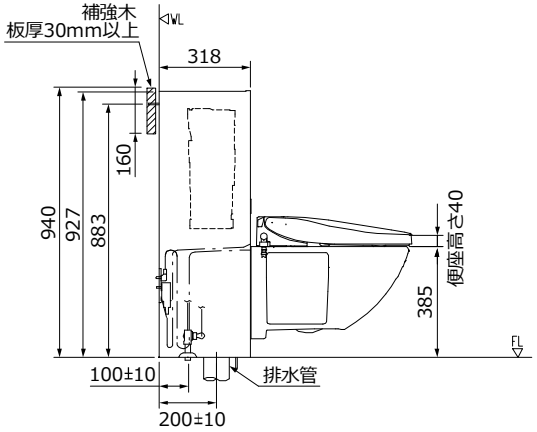


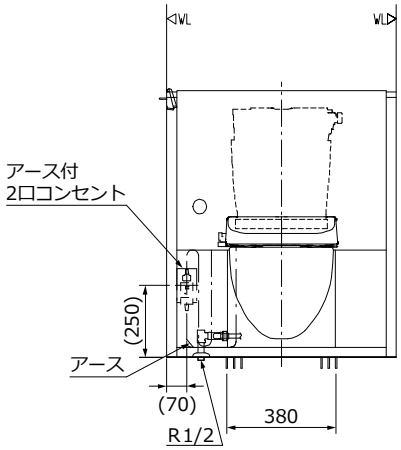
【下地補強固定の場合】

（単位：mm）



リモコン正面形状





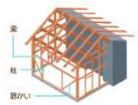
※インバータ照明により誤作動する場合あり。
※（　）内は参考寸法。
※補強木の仕様について は P.30 を参照してください。
※キャビネット上部に手洗器などを設置しないこと。照明部に水が掛かり火災や感電の恐れがあります。

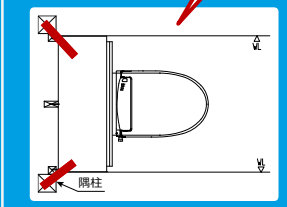
建物の構造別対応施工方法は？

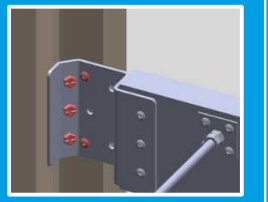
「構造体」により、取付方法も変わります。

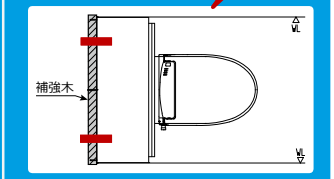
隅柱を利用して補強木を取付

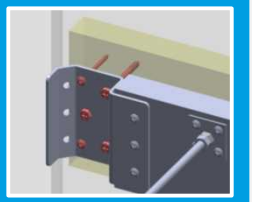
補強下地を利用して補強木を取付

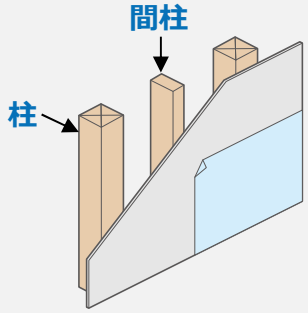
材質		工法			対応施工方法	
					隅柱固定	補強下地固定
木造	木	木構造	木造軸組工法		○（入隅に柱がある場合）	柱がない or 柱が劣化している場合
			枠組壁工法（2×4工法）		―（入隅に柱などの分厚く、たわまない しっかりとした下地がないため 隅柱固定は使えない）	○（柱や間柱に補強下地を固定する）
非木造	鉄	鉄骨造（S造）				
	コンクリート+α	鉄筋コンクリート造（RC造）				
		鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）				











強度がない場所（石膏ボードやLGS）などには補強下地を固定しないこと。別途補強を入れて下さい。P44.45の参考納まり図を参照下さい。

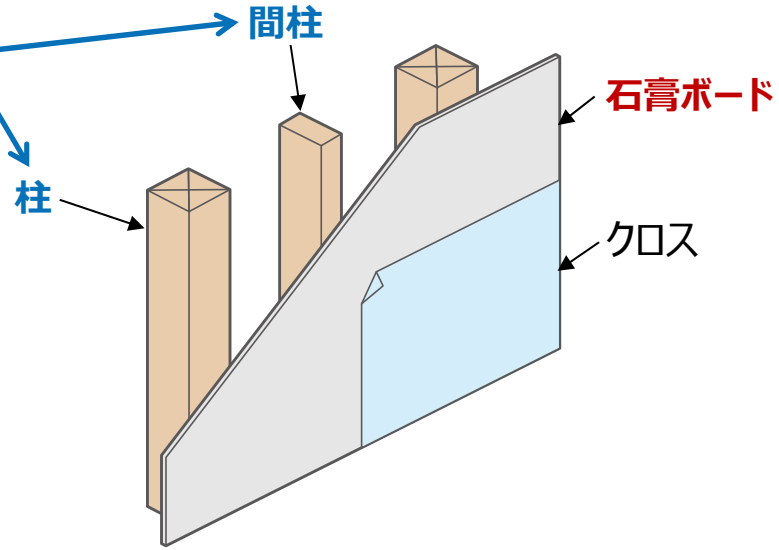
フレームを支える補強木と固定金具はどんな壁にも付けて良い？

▌しっかりと固定されている構造躯体（隅柱、管柱、間柱）以外への取り付けは不可です。

木造軸組工法の場合

- 構造体により下地の材質は異なります。

強度のある構造躯体への取り付けが基本。



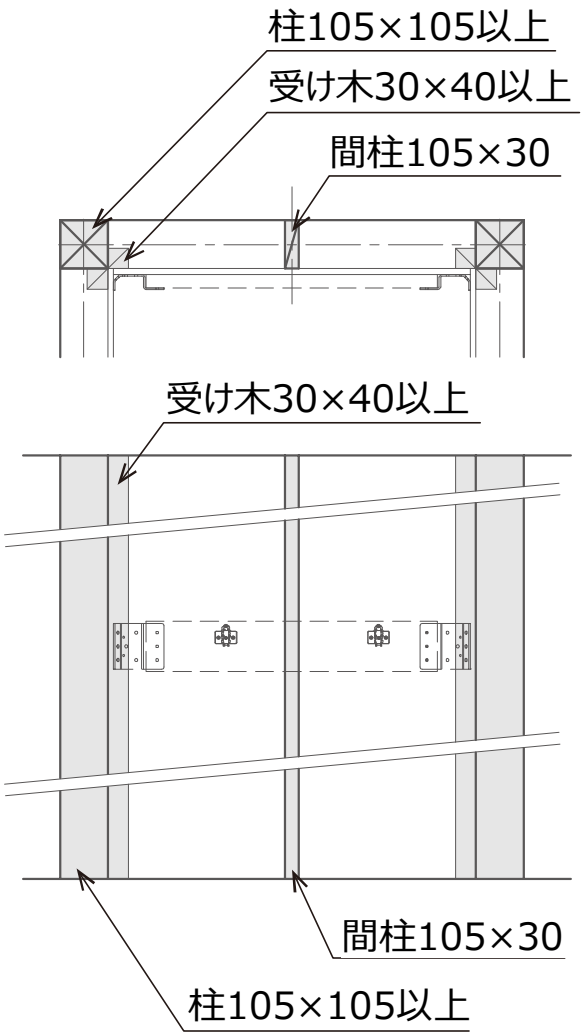
強度のない意匠壁や仕上げ壁、間仕切り壁に取り付けても壁が倒れてくる可能性あり！！

取り付けたいところに間柱等がない場合、下地補強必須。

部位名称	役割・説明
構造体 （構造躯体）	建築構造を支える骨組み、構造強度に関わる部分。
非構造体	建築構造強度に関わらない部分。

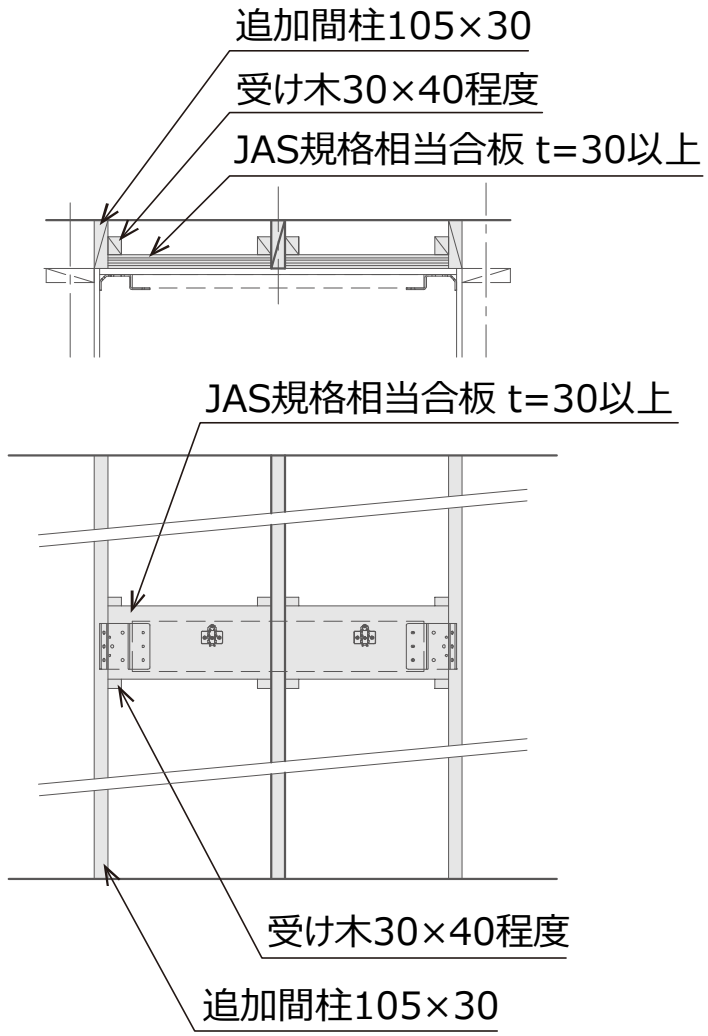
参考：下地補強 納まり例

在来工法 隅柱ありの場合



在来工法 隅柱なしの場合

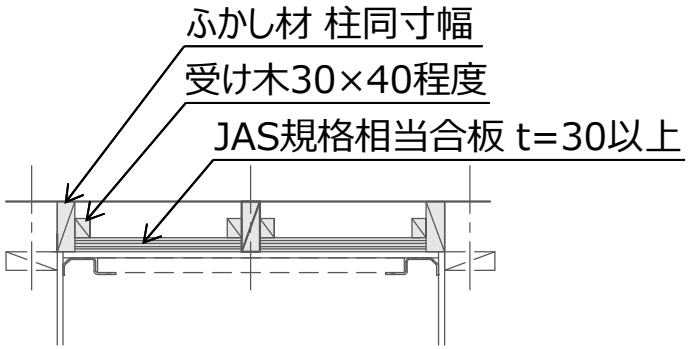
（単位：mm）

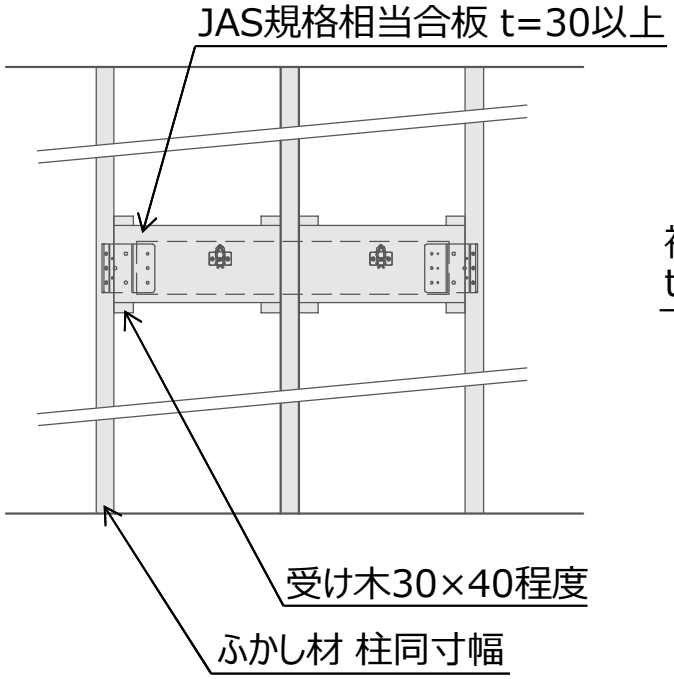


参考：下地補強 納まり例

※LGS＝間仕切り壁用の下地
補強用軽量鉄骨＝強度が必要な部分に用いる下地材

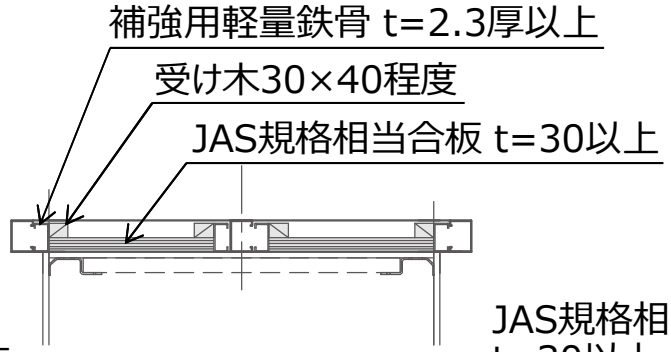
2×4工法の場合

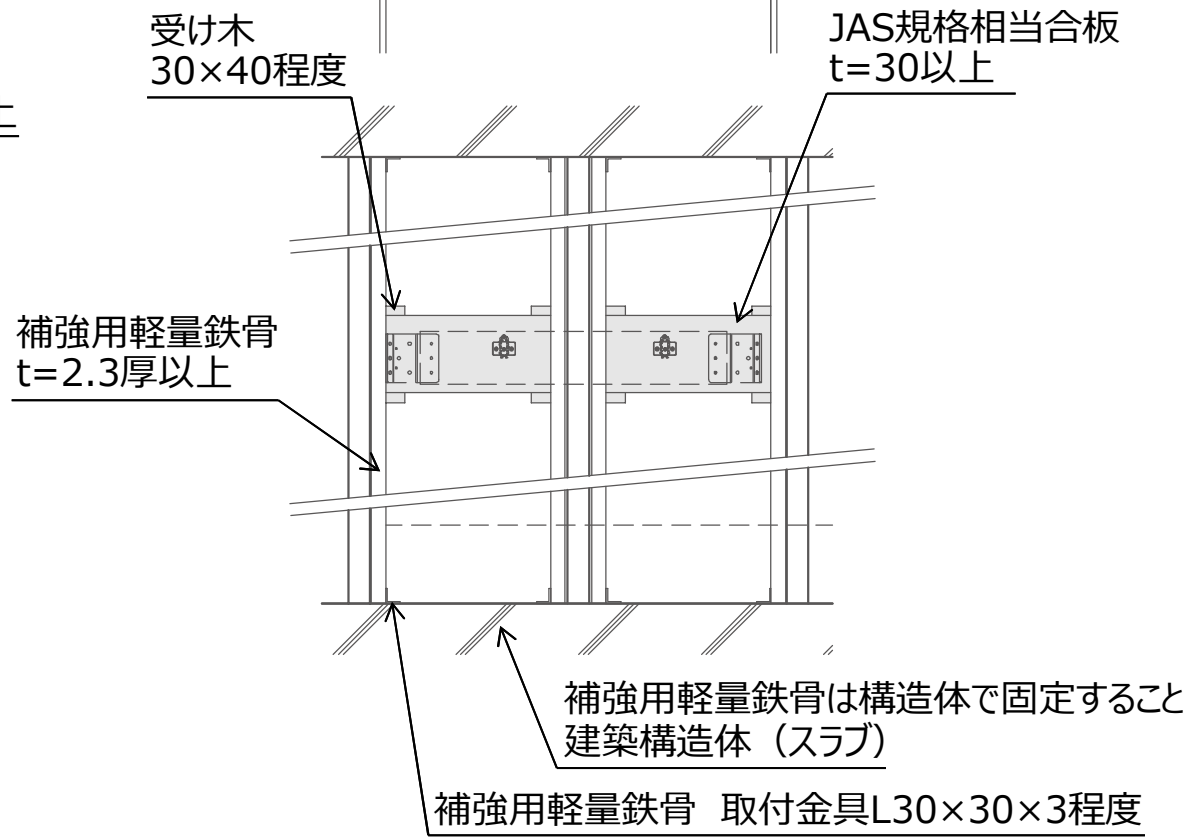




※LGS下地の場合

（単位：mm）





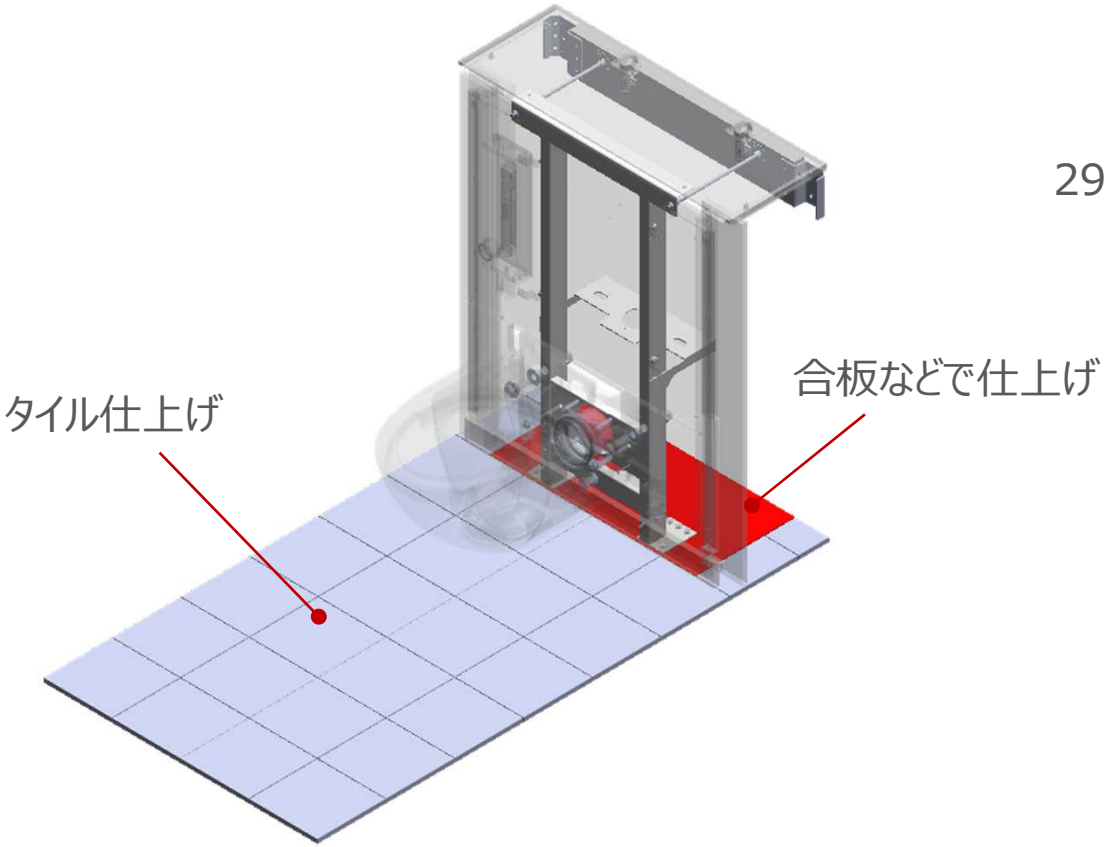
壁や床の表面材の材質は決まっているの？

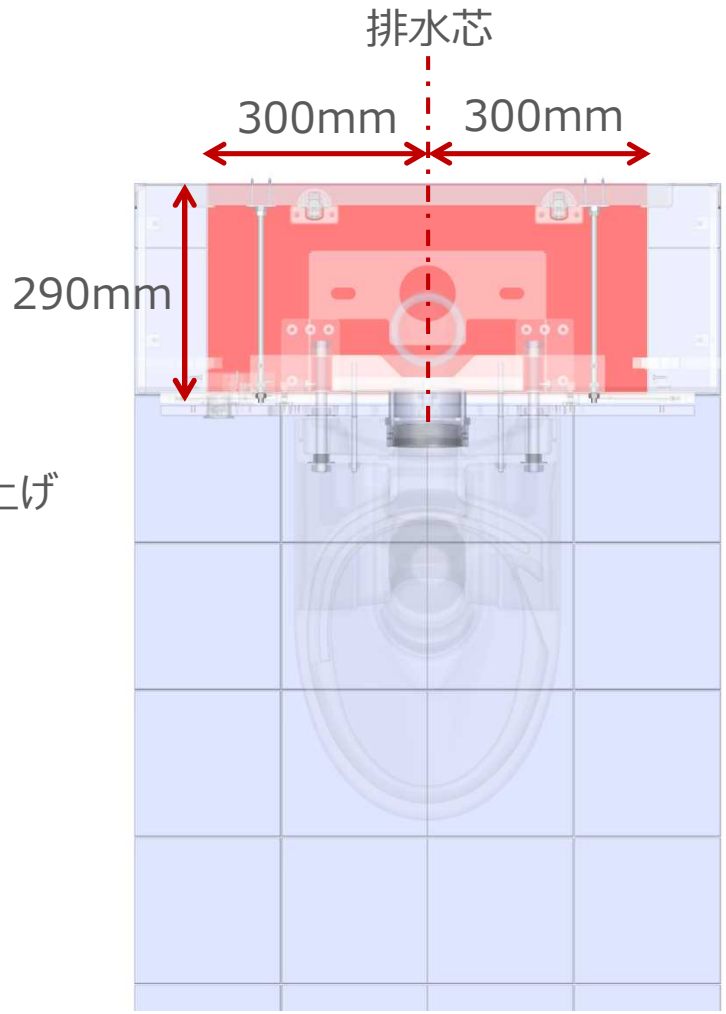
一般的な床壁材には使用できます。
ただし、床にはフレームの脚部に荷重が掛かるため、タイルなどは亀裂が入る可能性があります。
意匠面のみタイルを貼ることは可能です。P.17の納まり図を参照ください。

	施工可能	施工不可
壁	クロス 塗り壁（ただし凹凸がないこと） 塗装 タイル	—
床	クッションフロア フローリング 他一般的な床建材	全面タイル ※新築時においてキャビネット部より前側のみ、タイル仕上げとすることができます。

床をタイル仕上げにしたい場合は？

フレームが取り付くタイル部分は合板仕上げとします。
フレームに掛かる荷重によるタイルの割れに配慮することを推奨します。





取り付けたいのに、対応間口の対象外です。

基本的には設置不可です。

物理的に設置可能な最小間口は**735mm**です。
※ただし間接照明部分のすき間は空きません。また、便器横パネルは幅木部分のカットが必要です。
なお、最大間口は**810mm**です。

エンドパネルについて

エンドパネルの設定はありません。

リフォレのエンドパネルも使用できません。
現場で袖壁を造作して取り付ける場合は、背面壁の下地補強がたわまないように強固に固定してご対応ください。

施工するのにどれぐらいの時間がかかるの？

通常の便器施工+約2.0hで製品の取り付け可能です。

工　程	組合せ便器	フロートトイレ
止水栓の取付け	同等	
補強木の取付け	なし	41min
本体フレームの固定	なし	31min
便器の取付け （排水ソケットから便器固定）	11min	35min
タンクの取付け	同等	
パネルの取付け	なし	10min
シャワートイレ	同等	
カウンターの取付け	なし	21min
合計（差異）	**―**	**127min**

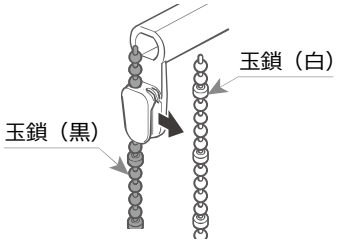
フロートトイレデータ：社内外施工モニター時の各工程時間（n＝3）
組合せ便器データ　：商品開発時の施工検証記録抜粋

水量変更できるの？

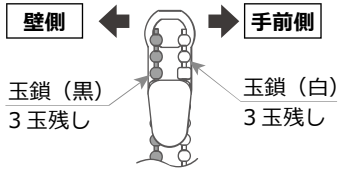
既存品と同じ構造！6L→8Lに水量変更可能です。

❶ 止水栓を閉める
❷ 洗浄ハンドルでタンク内の水を抜く

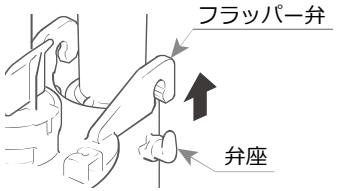
❸ **玉鎖（白）を外す**



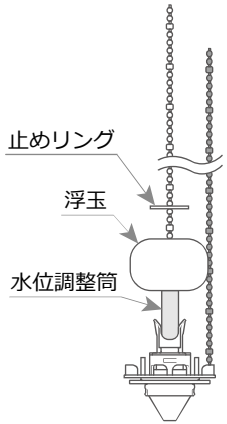
【参考】出荷時玉鎖取り付け位置



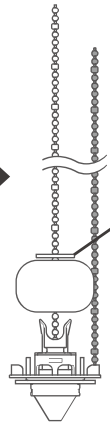
❹ フラッパー弁を**外す**

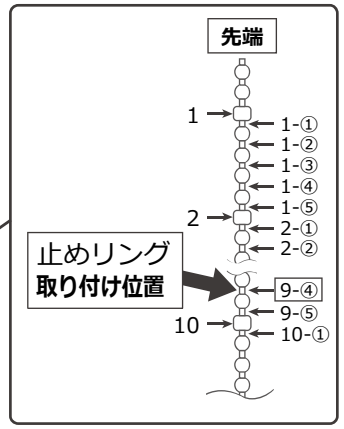


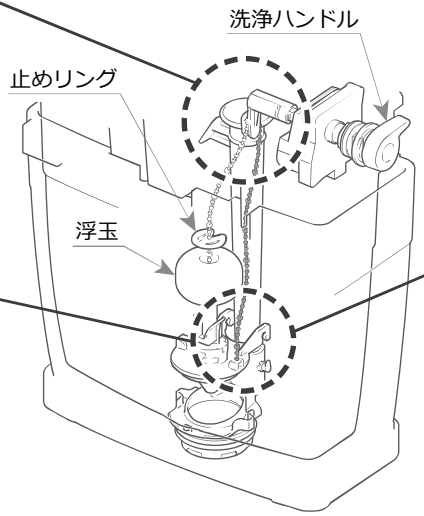
❺ 止めリングと浮玉を外し、**水位調整筒を引き抜く**



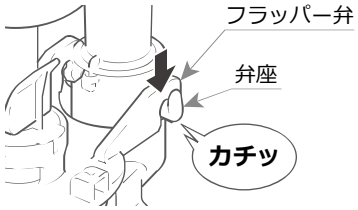
❻ 浮玉を戻し、止めリングを取り付ける







❼ フラッパー弁を取り付ける



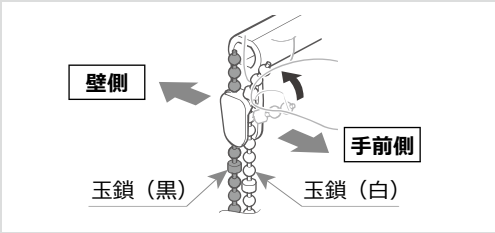
⚠ 注意

- **フラッパー弁がスムーズに動くことを確認してください。**

❽ 玉鎖（白）を取り付ける

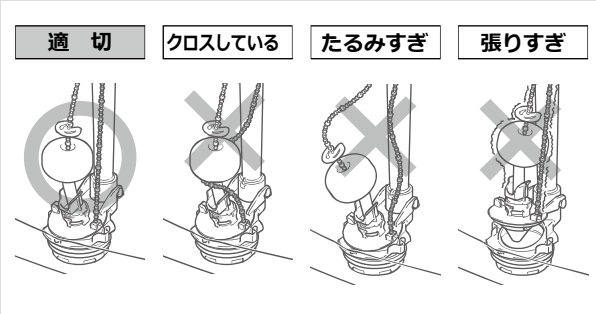
⚠ 注意

- **玉鎖は手前側が白、壁側が黒です。**
  ※反対に取り付けると洗浄不良の原因になります。



- **洗浄ハンドルを操作し、正常に動作することを確認してください。**
  ※止水不良の原因になります。

- **鎖の張り過ぎやたるみ過ぎがないことを確認してください。**
  ※洗浄不良や止水不良の原因になります。



その他の質問

	質　問	回　答
強度について	壁裏補強下地って、どこに入れればいいの？	P.4を参照ください。
間口について	トイレが引き戸だが、大丈夫？	背面壁より袖壁が400mmあれば施工可能です。 P.6を参照ください。
排水について	排水芯が200±10mmを超えています。 排水管がジャバラなので対応はできますか？	排水ジャバラの設計許容範囲は±10mmまでです。 キャビネットが取り付かない、もしくは排水部材に負荷が掛かり漏水の危険があります。
	排水芯が範囲外の場合は、追加部材で対応できますか？	できません。建築側の排水管を立ち上げ直してください。
	排水芯を120mm等にすればキャビネットの奥行き寸法は小さくできますか？	カウンターの奥行き方向の調整が不可のため、対応できません。
	排水管がVP100、VU100だった！	別売の変換アダプターを手配してください。 （VP100用：34-1187, VU100用：34-1186）
給水について	既存給水位置のままで使用できますか？	給水対応範囲内なら移動することなく取り付けができます。 ただし場所によっては取替用止水栓（TF-3892ER） P.8を参照ください。
設置場所	マンションにも取付できますか？	壁補強下地を入れる事で取付できます。但しコンクリート床の場合は後施工アンカーの間隔が確保できないため取付できません。

LIXIL

Link to Good Living